

自助 共助 の力で... みんなの街はみんなで作ろう



会長 川戸 真二

自然は我々の想像を絶する力、人間には歯が立ちません。地震、大雨、豪雪、竜巻、火災が私たちを襲ってきます。大災害を防ぐことは困難ですが、皆の力で犠牲者を一人でも減らせるように日頃からの備えをしておくことが大切です。

そこで道下地区自主防災会の組織と役割を見直し、隣同士で顔の見える、助け合えるブロック別の体制に変えました。防災本部も専門的人材を揃え、対応力の強化に努めてまいります。

「自分の身は自分で守ろう」
「みんなの街はみんなで作ろう」

道下自主防災会 新たに！

副会長 川岸 芳雄

近年、多くの災害から学んだことは、防災から減災へです。そのためには、日頃からの減災知識の習得と、いざという時の訓練です。そして、お年寄りなどの災害弱者をまもることも大切です。街ぐるみでの活動です。

「みんなで防災訓練に参加しよう」



No. 91 号

発行者 大崎 勇
編集者 編集委員会
TEL 0765-22-2285
ホームページアドレス
<http://www.nice-tv.jp/~michi-k/>

H25年度 道下地区 自主防災会組織

道下地区自主防災会（本部）
・会長（防災士）・副会長（防災アドバイザー）・副会長（区長会長）

防災委員
・消防団OB・医師・看護師

第1ブロック	第2ブロック	第3ブロック	第4ブロック	第5ブロック	第6ブロック	第7ブロック
岡田区・岡田2区	仙田区・仙田区・下道区 磯崎区・小川田住宅区	青島1区(2~6班) 青島2区・青島3区 青島住宅区	青島1区(1,7~9班) 高島区	青島新町区・友栄区 北中区・北中新区・荒磯区	北鬼江1区・北鬼江2区 北鬼江3区・道下住宅区	釈迦堂区・本新区
◎... ブロック長 ○... 副ブロック長	◎井川 克治 ○森野 篤彦	◎福島 謙一 ○石坂銀太郎	◎菅野 裕司 ○和田 正一	◎高島 照美 ○米田 直樹	◎川岸 久栄 ○加藤多津子	◎魚谷 健三 ○古川 至
連絡情報班	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長
消火班	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長
救出救護班	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長
避難誘導班	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長
給食給水班	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長	班長・副班長

全ブロック・活動班の協働で
防災力を強化

道下ふれあい 文化祭

11月9日(土)
10日(日)

会場 道下公民館前
北鬼江会館前広場
作品大募集
出展申込 10/10~25
作品搬入 10/31~11/2

道下地区 体育祭

10月6日(日)

時間 午前 9:00~
会場 道下小学校
グラウンド
(雨天時
ありそドーム)

じゃんとこい魚津祭り 蝶六街流し

8月4日(日)

時間 午後 7:00~
会場 浜岡商店→長教寺
チームおとした
踊り手大募集

第8回 ふるさと 探訪ウオーク

川原田博士夢の郷
桃山運動公園
(野方探訪)

6月11日(火)

集合 午前 9:00
道下公民館
出発 午前 9:20

道下地区 敬老会

6月9日(日)

受付 午前 9:15~
開会 午前 9:45~
(午後 1:15 開会予定)
会場 道下小学校
体育館
※昼食時カラオケ大会あり

地区名	配布物数	区 長	体育推進委員	文化祭推進委員	防 犯 組 合	交通センター委員	環境保健衛生推進員	福祉推進委員
新役員のみなさま よろしくおねがひします！	23区 1714	(会 長) 森 野 篤 彦 (副会長) 川 戸 真 二 (会 計) 高 島 照 美 (監 事) 高 瀬 進 一 能 沢 一 生	体育振興会役員 (会 長) 松 本 明 夫 (副会長) 寺 田 行 男 (事務局) 山 城 美 和 子 伊 藤 範 彦 寺 田 淑 人 小 黒 健 太郎 富 居 陸 男 狐 塚 智 美	敬老会 6/9(日) 街 流 し 8/4(日) 体育祭 10/6(日) 文化祭 11/9(土)10(日)	(組合長) 木 内 清 光 (副組合長) 原 武 雄 (書 記) 虎 谷 廂 (会 計) 古 川 至 (監 事) 山 田 修 一	(支部長) 吉 崎 実 (副支部長) 大 原 一 雄 口 日出 輝 郎 崎 和 弘 枝 室 谷 雅 芳 青 山 明 正 (高齢者部会長) 山 本 明 正 (母の会) 吉 田 千 恵 子	(会 長) 松 岡 算 (副会長) 浅 生 修 (会 計) 窪 田 幸 二 (監 事) 細 田 貞 男	
岡 仏 田	137	井 川 克 治	山 本 茂 裕 谷 越 泰 修 小 嶋 一 志	種 田 利 江 富 山 麻 衣 子	綿 屋 博 文	美 谷 光 隆	谷 崎 恒 夫	谷 越 光 子 水 野 秀 雄 平 田 満 利 子
岡 仏 田 2	91	森 野 篤 彦	沢 田 一 志 富 川 義 之	森 野 篤 彦	山 下 輝 雄	酒 井 勇 一	有 磯 悟	柳 原 英 志
仏 田	158	能 沢 一 生	池 崎 哲 朗 富 田 泰 彦	島 村 栄 一	能 沢 一 生	能 沢 一 生	高 林 義 正	本 田 妙 子 河 崎 洋 子
仏 又	20	福 島 謙 一	福 島 謙 一	福 島 謙 一	福 島 謙 一	福 島 謙 一	福 島 謙 一	福 島 謙 一
青 島 1	147	和 田 正 一	中 島 千 秋 浦 城 俊 正	和 田 正 一	和 田 正 一	山 城 信 行 山 瀬 和 彦	松 岡 算 春 辻 義 春	松 常 憲 治 西 木 佳 靖 尾 尾 高 子
青 島 2	72	村 田 満	笠 木 達 也 山 内 聡	村 田 満	平 野 尚 美	南 部 辰 実	田 村 栄 子	山 瀬 道 子 油 本 順 子
青 島 3	146	木 内 一 進	八 幡 文 隆 郷 田 康 巧 立 塚 司	木 内 一 進 堤 谷 清 等	浦 田 俊 弘 紙 尾 貞 則	油 本 智 宏 河 浦 勝 二	福 田 正 博 堤 谷 清 等	荒 高 才 治 青 木 幸 一 庄 幸 二
青島社宅	10	升 田 周 平	高 橋 裕 幸	谷 口 正 法	葉 勢 森 敏	高 橋 裕 幸	田 中 亮	東 英 雄
青島新町	32	米 田 直 樹	宮 崎 人 志 黒 瀬 清	米 田 直 樹	米 田 直 樹	米 田 直 樹	浅 生 修	中 克 之
友 栄	40	高 島 照 美	四 柳 鈴 子 古 谷 絵 里		松 島 陽 子	水 本 美 喜 雄	広 川 裕 子	山 田 博 安
北 中	40	三 井 健 一	寺 田 金 晃 古 南 三 津 夫 茂 樹	谷 明 夫	木 下 勝 則	鹿 熊 武	浜 藤 勝	浜 藤 勝
北 中 新	20	長谷川 竜 一	有 磯 明 和 石 井 利	長谷川 竜 一	石 崎 健 男 谷 山 勝	中 村 由 則	三井田 信 吉	三井田 信 吉
下 道	44	石 坂 銀 太 郎	荻 野 仁 司	小 林 弘 司	丸 本 弘 和	寺 西 良 一	窪 田 幸 二	小 林 弘 司
荒 磯	26	関 井 克 則	田 中 孝 志	田 中 孝 志	五十井 勝 紀	五十井 勝 紀	田 中 孝 志	五十井 勝 紀
高 島	41	菅 野 裕 司	三 村 幸 一 本 吉 隆 正 司 谷 隆	松 野 龍 一	田 家 清	木 下 旭 夫	池原谷 道 夫	慶 伊 多 紀 子
北鬼江 1	111	高 瀬 進	大 崎 悠 矢	橋 爪 栄	佐 藤 祥 洋 出 島	高 瀬 進	高 瀬 進	滝 本 美 樹 高 瀬 和 子
北鬼江 2	121	細 田 貞 男	河 西 正 敏	川 上 勉 細 田 貞 男		大 崎 章 博	細 田 貞 男	川 上 勉 細 田 よ し え
北鬼江 3	150	川 戸 真 二	川 岸 大 祐	片 山 伸 二		片 山 伸 二	川 戸 真 二	大 原 一 雄 大 崎 康 男 大 崎 美 和
釈 迦 堂	63	魚 谷 健 三	横 田 雅 幸 大 嶋 伸 二	大 島 正 彦	森 内 謙 一		魚 谷 健 三	大 堀 内 優 子 島 内 優 子
本 新	163	古 川 至	朝 野 雄 悦 山 田 藤 貴 加 藤 敏 治 大 船 仁	石 川 昭	朝 野 雄 悦	寺 崎 和 郎	寺 崎 輝 子	加 藤 ます 美 吉 崎 愛 子 寺 崎 美 津 枝
磯 路	34	森 敏 明	藤 森 敏 治 大 船 仁	藤 森 敏 治	中 野 祐 洋 野 家 明 夫	竹 山 信 一 松 木 泰 範	平 野 美 津 子	森 理 恵 子
小川田住宅	8	水 口 勇		金 和 恵 子			金 和 恵 子	水 口 勇
道下住宅	40	加 藤 多 津 子	阪 本 真 由 美		石 崎 勉 治 宮 津 新		川 島 悦 代	加 藤 多 津 子

平成25年度

各種団体 役員・地区役員

● 道下地区振興協議会役員

会 長	大 崎 勇	事務局 長	木 下 英 暖	評 議 員	吉 崎 実	評 議 員	石 坂 銀
副 会 長	森 野 篤 彦	事務局 員	武 田 寛		的 場 茂 晃		関 井 克 則
	葉勢森 正之	(会 計)	他部会一名ずつ		井 川 克 治		菅 野 裕 進
理 事	森 内 光 雄	顧 問	中 瀬 淑 美		福 島 謙 一		高 瀬 田 貞 男
	川 岸 久 栄		寺 崎 孝 洋		和 田 正 一		細 川 戸 真 二
	石 川 昭 彦	評 議 員	久 保 田 満 宏		村 木 内 一 満		川 魚 谷 健 三
	清 河 明 彦		山 田 夏 子		升 田 周 平		古 森 口 敏 明
	古 川 幸 枝		山 本 明 正		米 田 直 樹		森 水 加 藤 多
	青 山 芳 枝		松 岡 算 子		高 島 照 美		加 藤 多 津 子
	他部会一名ずつ		石 川 登 美 子		三 井 健 一		
監 事	能 沢 一 生		加 藤 康 彦		長 谷 川 竜 一		
	吉 田 千 恵 子		木 内 清 光				

● 魚津市消防団道下分団

分団 長	加 藤 康 彦
副分団 長	川 岸 久 栄
部 長	加 藤 正 隆
	本 元 久 昭
	西 尾 勉 茂
班 長	虎 谷 幸 保
	寺 崎 博 文
	金 森 勲 豊
	澤 崎 利 和
	山 田 隆 範
	久 保 貴 誠
	浅 生 貴 誠
	長 谷 川

● 道下校下防犯組合役員

組 合 長	木 内 清 光
副組合 長	原 武 雄
書 記	虎 谷 廂
会 計	古 川 至
会計監 査	山 田 修 一
連絡所 員	石 垣 健 一
	浦 田 富 治
	小 畠 範 文
	中 村 良 夫
	浜 田 長 藏
	三 浦 栄 蔵
	米 山 弘

● 道下老人クラブ連合会役員

会 長	山 本 明 正
副 会 長	古 川 清 作
	扇 谷 和 暢
理 事	森 内 貞 男
	横 田 葉 子
	川 岸 隆 枝
	中 川 幸 枝
	金 物 正 男
	小路 義 弘
	小 崎 信 子
	寺 崎 富 治
	浦 田 苗 晃
会 計	森 内 貞 男
監 事	寺 崎 和 郎
女性委員	加 藤 民 子
	小 路 典 子
高 齢 者 主 事	中 川 幸 枝

● 道下婦人会

会 長	青 山 芳 枝
副 会 長	山 城 美 和 子
	藏 谷 初 乃
	小 森 幸 子
書 記	寺 田 千 鶴 子
	金 三 津 千 恵 子
会 計	吉 田 千 恵 子
	経 田 喜 子
監 査	川 岸 律 子
	谷 島 紀 子
女 性 セミナー	岡 崎 香 子
	武 田 啓 子
	寺 田 光 子
	河 崎 洋 子

道下婦人会では、年間を通して会員を募集しています。どなたでも誘い合せて参加してください。

連絡先 090-6275-5364
(青山)

● 道下地区民生委員
児童委員協議会

委 員	担 当
山 田 夏 子 (会 長)	北 鬼 江 2 区
田 中 源 三	岡 仏 田 区
室 口 日 出 輝	岡 仏 田 2 区
金 和 恵 子	仏 田 区
	磯 路 区
	仏 又 区
	小 川 田 住 宅 区
	下 道 区
米 山 隆 司	青 島 1 区
吉 田 尋 子	青 島 2 区
	青 島 新 町 区
浦 親 利	青 島 社 宅 区
	青 島 3 区
大 崎 政 春	北 中 区
	友 榮 住 宅 区
	北 中 新 区
	荒 磯 区
大 崎 寛	高 畠 区
	北 鬼 江 1 区
木 下 純 一	北 鬼 江 3 区
大 島 英 則	道 下 住 宅 区
加 藤 昇	釈 迦 堂 区
本 田 恵 子	本 新 区
本 辻 淳 子	主 任 員
	児 童 委 員

● 道下地区
社会福祉協議会

会 長	葉勢森 正 之
副 会 長	山 田 夏 子
	高 島 照 美
事 務 局	木 下 純 一
会 計	小 畠 真 知 子
理 事	室 口 日 出 輝
	村 井 武 美
	松 原 益 美 子
	笹 川 恵 子
	森 野 篤 彦
	山 本 明 正
	古 川 清 作
	金 物 正 男
	小 路 典 子
	青 山 芳 枝
	松 岡 算 子
	木 内 清 光
	吉 崎 実 晃
	中 川 幸 枝
	石 川 登 美 子
	山 本 た き 子
	吉 田 千 恵 子
	田 中 源 三
	浦 親 利
	大 崎 寛
	大 島 英 則
	加 藤 昇 子
	金 和 恵 子
	大 崎 政 春
	吉 田 尋 子
	米 山 隆 司
	本 田 恵 子
	本 辻 淳 子
	米 山 明 美
監 事	武 田 寛 生
参 与	大 崎 勇
	清 河 明 彦

★ 道下公民館運営審議委員

会 長	本元 義明 有 識 者
委 員	清河 明彦 道下小学校長
新	森内 光雄 道下振興協合理事長
新	葉勢森正之 地区社会福祉協議会長
	森野 篤彦 道下地区区長会長
	松本 明夫 道下体育振興会長
	青山 芳枝 道下婦人会会長
新	高野 史雄 有 識 者 (監 事)
	小森 幸子 有 識 者 (監 事)
新	古川 幸生 道下小学校育成会長

★ 道下公民館職員

館 長	大崎 勇
主 事	武田 寛
指導員	本田 恵子
書 記	米山 明美
書記代替	牧野 暁美



主 事
武田 寛

今年度も
よろしくお願ひします。

道下公民館 平成24年度決算・平成25年度予算

収入の部

(単位：円)

	項 目	24年度決算	25年度予算
委国 託県金	放 課 後 子 ど も 教 室 (道下子ども教室)	452,000	418,000
	小 計	452,000	418,000
市交 付金	地 域 異 世 代 交 流 事 業	215,000	250,000
	高 齢 者 学 級	80,000	80,000
	公 民 館 教 室	170,000	150,000
	共 催 事 業 費	577,000	581,000
	書 記 ・ 指 導 員 活 動 費	20,000	20,000
	小 計	1,062,000	1,081,000
自主 財源	住 民 負 担 金	1,489,213	1,491,000
	道 下 振 興 協 会 助 成 金	350,000	350,000
	広 告 料	482,000	480,000
	雑 収 入	230,025	171,257
	繰 越 金	167,748	198,743
	小 計	2,718,986	2,691,000
	合 計	4,232,986	4,190,000

創立60周年記念事業

<収入>・道下振興協会より			
創立60周年記念誌 全戸配付 助成金	1,200,000		
・創立60周年記念事業積立金	596,577		
内訳			
平成20年度 積立金	100,000		
改築20周年事業積立残金	95,861		
平成21年度 積立金	100,000		
平成22年度 積立金	100,000		
平成23年度 積立金	100,000		
平成24年度 積立金	100,000		
利 息	716		
収入計	1,796,577		
<支出>・記念誌「道下のあゆみを尋ねて」			
1,700部 作成費	1,689,265		
・式典 経費	153,465		
支出計	1,842,730		
収入計 — 支出計	△46,153		
※研修活動費より支出			

支出の部

(単位：円)

	項 目	24年度決算	25年度予算
事 業 費	放 課 後 子 ど も 教 室	452,000	418,000
	地 域 異 世 代 交 流 事 業	215,000	250,000
	高 齢 者 学 級	80,000	80,000
	女 性 セ ミ ナ ー	150,000	150,000
	ふ れ あ い 活 動	20,000	0
	団 体 助 成 金	280,000	280,000
	敬 老 会 費	419,559	430,000
	体 育 祭 費	601,091	640,000
	文 化 祭 費	402,782	480,000
	芸 能 ・ ス ポ ー ツ 活 動 費	116,145	120,000
	広 報 活 動 費	302,156	320,000
	研 修 活 動 費	58,477	80,000
	小 計	3,097,210	3,248,000
運 営 費	会 議 費	19,903	36,000
	事 務 費	25,272	38,000
	通 信 費	11,264	25,000
	備 品 費	96,140	120,000
	修 繕 費	52,898	50,000
	光 熱 費	46,522	50,000
	消 耗 品 費	278,644	291,200
	負 担 金	58,000	62,000
	保 険 料	129,800	129,800
	書 記 ・ 指 導 員 活 動 費	20,000	20,000
	雑 費	78,590	80,000
	書記指導員勤続謝礼金積立金	20,000	20,000
	創立60周年事業積立 予 備 費	100,000	0
	予 備 費	0	20,000
	小 計	937,033	942,000
	合 計	4,034,243	4,190,000

収入合計 — 支出合計 = 次年度繰越金
4,232,986 — 4,034,243 = 198,743

<積立金>

区 分	23年度末 現在 額	24年度中増減額 増 減	24年度末 現在 額
創立60周年記念事業積立金	495,861	100,716	596,577
書記指導員勤続謝礼積立金	20,000	20,006	40,006
計	515,861	120,722	636,583

道下公民館 利用サークル

みなさんの参加を
お待ちしております平成25年度
6月～12月 主な行事予定

サークル名	と き	時 間
健康体操 (命の貯蓄体操)	月・金	10:00～
茶 道 (茶楽利の会)	月(月2)	9:30～
フラダンス (いきいきアロハ)	火	13:30～
よさこい (いぶき)	火・木	19:30～
剣 詩 舞 (渋川流剣真会)	水	13:30～
	土	13:30～
絵 手 紙 (色いろ)	水	13:30～
蜃気楼節保存会	水(月2)	19:30～
社交ダンス (道下教室)	木(月2)	13:30～
道下の歴史を語る会	月 1	13:30～
中 国 語	水	19:00～
男の魚捌き方教室 (ととカルチャー)	月 1	10:00～
和 裁 (友の会)	水(月2)	13:30～
着 付 (友の会)	木(月2)	13:30～
道下サークル活動 (小・中学生) (お茶・将棋・三味線・創作・ スポーツ・クッキング)	土(月1)	9:30～ クッキング 13:00～

と き	行 事 名
6月9日(日)	道下地区 敬 老 会
6月11日(火)	第8回 ふるさと探訪ウォーク-野方探訪- (川原田博士夢の郷・桃山運動公園)
6月23日(日)	ソフトボール大会(東中グラウンド) 道下住民ゴルフ春季大会(国際カントリー)
8月4日(日)	蝶六街流し
9月10日(火)	道下パークゴルフ大会(おおしまパークゴルフ場)
9月22日(日)	道下住民ゴルフ秋季大会(国際カントリー)
10月6日(日)	道下地区 体 育 祭
11月9日(土) ・10日(日)	道下ふれあい 文 化 祭
11月24日(日)	ビーチボール大会(道下小学校体育館)
12月14日(土)	X'mas ケーキづくり

道下の歴史を語る会

2月、魚津観光ボランティアの皆さんからの講演依頼を受け、お話しした内容の一部です。

日本カーバイド魚津工場

誕生に至る経緯と周辺エピソード

石灰を農業用肥料として加工し、本格的に使い始めたのは明治以降である。藩政時代石灰は禁制品であった。

藩制時代に於ける農作障害事案として、道下では片貝川の洪水に伴う水害、早魃^{かんばつ}、水温の低さ、そして病害虫の発生等がある。

その為、明治期に入るや石

灰工場（石灰を焼く窯）が各地で作られるようになり、道下では本新村そして北鬼江村に合せて7つの窯が作られた。

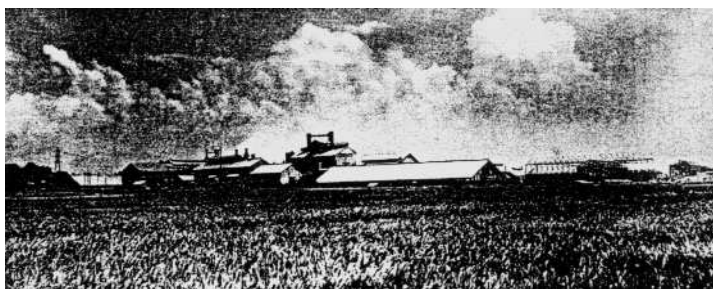
原料となる石灰石は何れも青海、親不知から採石されたものである。

当時、本新村海岸付近には砂地が広がっており一部は競馬場ともなっていた。また雑木林もあり、「赤川」、「田畑川」、「尾川」が流れ、工場立地には相応の敷地があった。

魚津工場周辺地図



更に明治18年には現在の魚津―生地線道路が繋がり、明治41年、鉄道建設を目途とした浜線（海岸線）も現在の魚津港付近から魚津駅間に敷設された。



昭和13年 魚津工場

こうした状況のなか、明治43年頃、富山県下新川郡道下村本新751番地に新潟県長岡の山口達太郎が日本電気工業株式会社の魚津支店を置き、職工125名をもつてカーバイドの製造を開始している。

明治45年、同社は片貝に自家発電所を建設（現片貝第一発電所）。更にカーバイド工場

を拡張するなど経営状態は順当に推移していたが、第一次大戦後の経済不況により工場は閉鎖。その後暫くの間、富山電灯株式会社や日本海電気（北陸電力の前身）に移っていた。

昭和4年、当時の日本のカーバイド製造技術の第一人者藤山常一博士と日本海電気が共同して、国産肥料株式会社を設立。この頃より地元民はカーバイド工場を「ガス会社」と呼んでいた。しかし、続く経済不況により操業停止に追い込まれている。

昭和5年の工場閉鎖時、従業員200名だったものが僅か28名に減員。その後に残された従業員で魚津カーバイド製造組合を設立する。

昭和6年11月、組合経営による製造を開始した。当時のカーバイド価格の高騰もあつて工場の拡張や作業改善が進み、雇用されていた従業員も再び雇用されるまでになった。

このように、工場設備も充実したため、昭和9年6月に第二国産肥料株式会社として再出発。同年11月、再び国産肥料株式会社と社名を改称した。

取締役社長には谷欽太郎が就いた。此の頃既に石灰窒素の製造も開始していた。



青島社宅



記念社宅

しかし、昭和11年2月1日、国産肥料は国策事業としての東洋窒素工業株式会社の傍系、日本カーバイド工業株式会社に吸収合併され、ここに日本カーバイド魚津工場が誕生した。

初代社長は奥村政雄である。

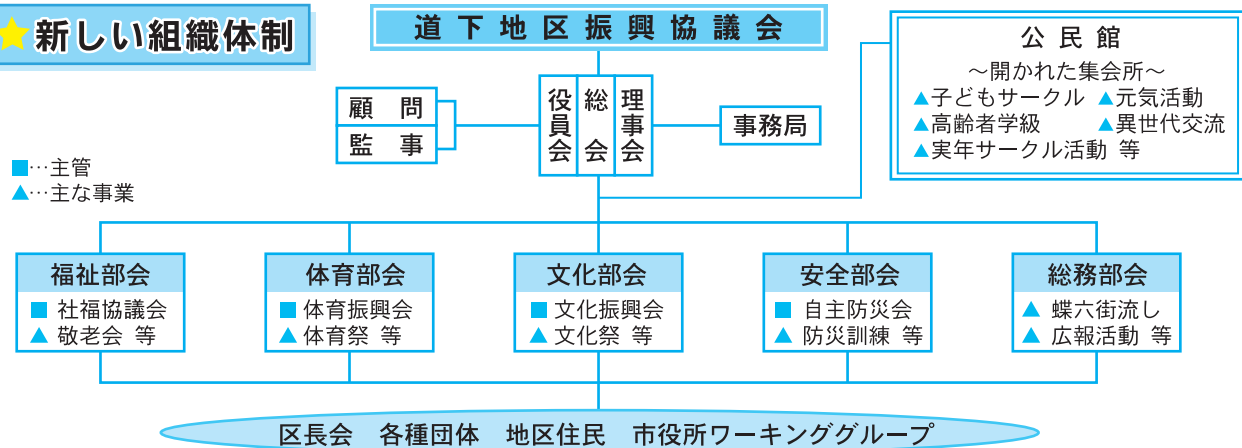
（文責 細田）

地区振興協議会の組織体制が変わりました！

「地区振興協議会」は、道下地区の課題の解決や地区の振興について、広く協議する場として、区長会をはじめ、道下地区にある各種関連団体の皆さんで構成されています。今年度から、この体制に部会制を導入し、地区の敬老会、体育祭、文化祭などを中心にしながら、地区の福祉、体育、文化について、また、自主防災会の活動など、地区の安全面について協議していきます。

これからも、皆さんのご意見をいただきながら、必要な事業を実施していきたいと考えていますので、事業実施にあたりましては、ご協力の程よろしくお願いたします。

★新しい組織体制



◆部門構成

顧問	地元市議会議員	監事	
役員会	振興協議会長 副会長 事務局長 会計 関係主管等(適宜参加)		
総理事会	振興協議会長 副会長 事務局長 会計 公民館長 公民館主事 道下振興協合理事長 区長会長 本新総代 北鬼江総代 道下小学校長 育成会長 婦人会長 福祉部会長 体育部会長 文化部会長 安全部会長 総務部会長		
総会	振興協議会長 副会長 事務局長 会計 事務局員 公民館長 公民館主事 道下振興協合理事長 区長 本新総代 北鬼江総代 道下小学校長 育成会長 婦人会長 福祉部会長 体育部会長 文化部会長 安全部会長 総務部会長 社会福祉協議会長 民生児童委員協議会長 老人クラブ連合会長 環境保健衛生協議会長 食生活改善推進協議会長 体育振興会長 文化振興会長 自主防災会長 消防分団長 防犯組合長 交通センター支部長 青空クラブ代表 市役所ワーキンググループリーダー		
公民館	公民館職員 公民館運営審議委員 公民館サポーター		
福祉部会	社会福祉協議会 民生児童委員協議会 老人クラブ連合会 環境保健衛生協議会 食生活改善推進協議会 福祉推進委員 等	安全部会	自主防災会 防犯組合 道下小 育成会 交通センター 等
体育部会	体育振興会 各種スポーツ団体 体育推進委員	総務部会	区長会 婦人会 青空クラブ 等
文化部会	文化振興会 育成会 各種文化サークル 文化推進委員 等	事務局	事務局長及び会計(事務局員から選出) 事務局員(各部会から1名及び公民館主事)



保里 昭男氏 撮影

保里 昭男氏(下道区)
(平成25年5月30日逝去 74歳)
運営審議委員として公民館の運営や諸行事に適切な助言をいただくなど、道下公民館の発展に多大なる貢献をされました。ご冥福をお祈りします。

受賞おめでとう
ございます

第三十七回
魚津市民卓球大会

○ラジボール
優勝(部)
優勝(道下)
優勝(男子の部)
優勝(女子の部)
優勝(優勝)
優勝(優勝)

加藤 敏明
油本 秀次
北野 京子
高橋美恵子
油本 秀次
北野 京子
北野 京子

道下地区の人口

(平成25年5月1日現在)

男 2,982人 (-23)

女 3,136人 (-5)

計 6,118人 (-28)

世帯 2,289世帯 (-20)

※カッコ内は前号対比

編集後記

公民館の今年度の重点目標は、「設計の原点に立ち返り現状を見つめ直し将来像を考えよう」地域の未来を拓く力を育てようとした。この目標に向かって一年間の事業が進むことを期待します。

事務所 MURMUR

道下公民館 御中
何時もお世話になりまして、有難うございます。新聞に入ってくる片面白のチラシは清潔感があってゴミとして捨ててしまふのは、2011年9月71歳没の(ケニヤ)ノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マタイさんのもったいないの心に寄り添って：私たちのなかよしサロンではリサイクル折紙箱を作っています。東日本大震災以来、片面白のチラシが極端に少なくなり、用紙のサイズも変わってきました。四角型はチラシ2枚で丈夫にして中が白、壺型はチラシ1枚で少しくして中が白か無地になるように清潔感を基本に注意しています。四角型180ヶ壺型100ヶ合計280ヶ皆様の健康を祈念しつつ愛を込めて折りました。少しでもお役に立てればとても嬉しく思います。お納め下さいませ。2013年5月15日 北鬼江一区なかよしサロン S・M

素敵なお手紙が届きました！

ありがとうございます。大事に利用させていただきます。